

令和5年度 前期学校評価報告書

鬼北町立近永小学校

【評定の評価基準】 A：80%以上達成 B：70%以上達成 C：60%以上達成 D：50%以上達成 E：50%未満

【アンケート結果】 4：できている 3：おおむねできた 2：あまりできていない 1：ほとんどできていない

※集計により100%に満たない場合がある。

項目	評価指標	評価	考察（◇）と改善方策（◆）	評価資料	評定	肯定率 (4+3)	4	3	2	1
人間力 笑顔で挨拶ができ、 思いやりの心を持った児童	①学校は、笑顔で元 気よく挨拶ができる 児童の育成に努力し ている。	A	◇集団下校の際に、称賛することで、次第に挨拶をするようになって きているが、個人差がある。 ◇通学班長が挨拶できる班は、全体的によくできる傾向がある。 ◇来校者への挨拶は、継続した指導が必要である。来校者からは、挨 拶がよくできると言われることが増えてきている。 ◆笑顔で挨拶の輪を広げることを意識して、称賛したり声掛けをし たりすることを繰り返し指導するとともに、登下校の指導を含め、具 体的に根気強く、教師から模範を示していく。	保護者	B	79.7%	20.3%	59.4%	18.0%	2.3%
				地域住民	A	89.5%	52.6%	36.8%	10.5%	0.0%
				教職員	A	94.1%	11.8%	82.4%	5.9%	0.0%
				児童	A	92.5%	54.7%	37.7%	7.5%	0.0%
	②子どもたちは、話 を聞くときには、相 手を見てしっかり聞 くことができている。	A	◇聞く姿勢をきちんとさせる必要がある。 ◇手遊びや姿勢が崩れやすい児童がとても多い。授業を止め、全体に 姿勢を正すよう声を掛ける必要がある。 ◇長時間は集中力が続かないので、話のポイントを示し短く話す必要 がある。 ◆毎日、聞く姿勢について指導を続ける。また、教師側も話すポイン トを絞って、聞かせる声の調子、間の取り方、強弱を大切にする。	保護者	A	86.6%	20.9%	65.7%	12.7%	0.7%
				地域住民						
				教職員	B	70.6%	5.9%	64.7%	29.4%	0.0%
				児童	A	96.9%	74.8%	22.0%	1.9%	1.3%
	③子どもたちは、相 手を思いやりなが ら、協力し合って学 校生活を送ってい る。	A	◇特別支援学級への優しい声掛け・手伝いを進んでできる児童が多 い。 ◇おおむね優しい児童が多い。自分の言動を相手は嫌がっている、 困っていると気付けない児童もいる。見えない相手の気持ちを想像す る力を付けたい。 ◆教育活動全般を通して、互いを思いやる気持ちを育て、人権意識の 高揚を図る。また、仲間意識や自己有用感を高められるよう、全校活 動、学級活動を工夫する。	保護者	A	97.7%	32.3%	65.4%	1.5%	0.8%
				地域住民	A	94.7%	36.8%	57.9%	5.3%	0.0%
				教職員	A	82.4%	5.9%	76.5%	17.6%	0.0%
				児童	A	96.9%	73.6%	23.3%	3.1%	0.0%
	④児童、教職員で協 働して清掃活動に努 め、校内・校舎の周 りの環境は気持ちよ く整備されている。 ※児童の問い「そうじ のさしすそを守って掃除 をしていますか。」	A	◇移動中の私語はあるが、よく掃除している。 ◇頑張っている児童が多い。がんばり賞は8割以上。 ◇掃除道具を決まった場所にきちんと片付ける指導が必要。 ◆教員の指示がなくても、てきぱき動ける、自分で汚れに気付いてき れいにする児童を増やすような指導を工夫する。併せて、後片付けに ついての指導もしていく。	保護者	A	96.9%	53.4%	43.5%	2.3%	0.8%
				地域住民	A	100.0%	63.2%	36.8%	0.0%	0.0%
				教職員	A	94.1%	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%
				児童	A	94.3%	75.5%	18.9%	5.0%	0.6%

活力	心身ともに健康で、一生懸命取り組む児童	⑤子どもたちは、自分から進んで体力づくりに取り組んでいる。	B	◇暑くなり外遊びをする児童が減った。 ◇休み時間や体育の授業での姿は良い。課外水泳への参加・取組が弱い。 ◆ウィズコロナ、熱中症を意識して、運動内容や活動内容を工夫する。個々の体力に応じた目標を持って取り組ませ、体力の向上と頑張る心を養う。陸上練習への前向きに参加できるように、体育主任と学級担任との連携を深める。	保護者	B	79.1%	38.8%	40.3%	19.4%	1.5%
					地域住民						
					教職員	B	75.0%	18.8%	56.3%	25.0%	0.0%
					児童	A	88.6%	68.4%	20.3%	8.2%	3.2%
	心身ともに健康で、一生懸命取り組む児童	⑥子どもたちは、行事や体験活動に意欲的に参加している。	A	◇予定していた活動がほぼ予定通りに実施することができた。 ◇今後も、感染症リスクと情勢をしっかりと見極めていくことが大切である。 ◆基本的な感染防止策を講じながら、児童が意欲的に活動できるよう行事の意味や価値をしっかりと理解させて取り組ませる。また、行事や体験活動に取り組んで良かったと言えるよう、支援の在り方も工夫する。	保護者	A	94.7%	42.4%	52.3%	5.3%	0.0%
					地域住民						
					教職員	A	100.0%	31.3%	68.8%	0.0%	0.0%
					児童	A	86.2%	59.1%	27.0%	10.1%	3.8%
	心身ともに健康で、一生懸命に取り組む児童	⑦子どもたちは学校へ行くのを楽しみにしている。	A	◇全体的に評価は高いが、保護者・児童の評価に「2」と「1」があり、学校を楽しみにしていないことについて、改善を図らなければいけない。（個別の対応が必要） ◇帰りの会等で、学校での楽しかった出来事を話す児童が多い。 ◇学級づくりや生徒指導の充実により、欠席が減っている。 ◆「学校が楽しい、明日も行きたい。」と誰もが言える学校を目指して、生徒指導体制や教育相談の充実、関係諸機関との連携を図る。また、児童の居場所づくりや仲間づくりにも努める。 ◆個別の対応が必要な児童について共通理解のもと支援する。	保護者	A	89.6%	45.5%	44.0%	6.7%	3.7%
					地域住民						
					教職員	A	100.0%	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%
					児童	A	91.8%	65.4%	26.4%	6.3%	1.9%
	心身ともに健康で、一生懸命に取り組む児童	⑧自己有用感や所属感を感じられるような、豊かな人間関係や温かみのある学級づくりに努めている。	A	◇教師が認める場、子ども同士で認め合う場を意識して設けてきた。 ◇学力が低い児童は、自己有用感も低くなりがちである。個別の対応や補充が必要となるケースも考えられるので、組織的に対応していく必要がある。 ◆児童一人一人に自信を持たせ、自分が好きと思える指導や子ども同士、教職員と子どもとのより良い人間関係づくりを目指す。個別の指導・支援が必要な場合は組織的に対応していく。	保護者						
				地域住民							
				教職員	A	93.3%	26.7%	66.7%	6.7%	0.0%	
				児童	A	97.5%	76.1%	21.4%	1.9%	0.6%	

基礎・基本を身に付け、意欲的に学ぶ児童	⑨子どもたちは、進んで読書をしている。	C	◇保護者の結果から、家庭では読書をしていないことが推測される。また、読書をする子としない子の差もはっきりしてきている。 ◇音読の宿題も読書である。何をどう音読させるか工夫すれば読解力につながる。 ◇本屋へ行こうプロジェクト、読書ビンゴ、とても有効的だった。 ◇本に触れる機会は確保した。学年相応の本を選べていない子が多い。 ◆教師や児童からおすすめの本を提示し、本に慣れ親しむ環境づくりを行う。また、朝読書の時間も確実に確保する。 ◆引き続き、家庭での読書を奨励する。	保護者	D	57.1%	18.0%	39.1%	30.8%	12.0%
				地域住民						
				教職員	A	86.7%	13.3%	73.3%	13.3%	0.0%
				児童	B	79.2%	58.5%	20.8%	15.7%	5.0%
	⑩子どもたちは、授業中や集会活動で、自分の意見を進んで発表している。 ※保護者の問い「お子さんは、自分の考えや思いを家庭で伝えることができています。」	B	◇コロナ禍による活動の制限により、発表の機会が少なかったのが全体的に肯定率が低い。 ◇今後、授業や集会活動等において意見交流の場を設定していくことで改善していくことが可能である。 ◆授業中に声に出しての意見交流の場を工夫するとともに、学年に応じて児童の発表意欲を高める方法を工夫する。 ◆集会活動の際には、感想や意見を交流できる場を工夫して取り入れていく。	保護者	A	88.1%	35.8%	52.2%	7.5%	4.5%
				地域住民						
				教職員	B	76.5%	5.9%	70.6%	23.5%	0.0%
				児童	B	70.4%	50.9%	19.5%	23.3%	6.3%
	⑪子どもの家庭学習の習慣が身に付いている。(学年×10分+α) *は忘れ物に関する問い	B	◇家庭学習の習慣には、子どもによって取組に個人差がある。家庭学習の習慣が身に付くよう、根気強く児童へ繰り返し指導するとともに、家庭への協力を呼び掛ける必要がある。 ◆家庭学習の大切さや成果を説明し、児童の意欲を高めるとともに、家庭の協力・確認によって確実に学習習慣が身に付くようにする。	保護者	C	65.7%	13.4%	52.2%	27.6%	6.7%
				地域住民						
				教職員	B	71.4%	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%
				児童	A	94.3%	78.6%	15.7%	4.4%	1.3%
	⑫ ICTを活用した授業改善に取り組むとともに、楽しく分かる授業の実践に努力している。 ※保護者の問い「お子さんは、授業は分かりやすいと言っている。」	A	◇一人一台端末を使つての授業が、定着してきた。授業での活用について、教職員の研修意欲も高く、情報交換を行いつつ実践に生かしている。 ◇児童のパソコン操作の個人差が、少しずつ解消されてきている。 ◆端末を上手く活用し、学力向上につながるよう授業改善に取り組み、個々の児童の基礎・基本の定着及び伸長を図る。	*保護者	A	86.6%	35.1%	51.5%	11.2%	2.2%
				*児童	A	86.8%	56.6%	30.2%	10.7%	2.5%
				保護者	A	95.4%	36.9%	58.5%	3.8%	0.8%
				地域住民						
	⑬子どもたちは、忘れ物や宿題忘れをせず、朝学習や補充学習、自主学習に意欲的に取り組んでいる。 ※保護者の問い「学校は、補充学習や宿題、自主学習など子どもの学力向上に努めている。」 児童の問い「朝学習や補充学習に進んで取り組んでいる。」	A	◇一人一台端末を使つての授業が、定着してきた。授業での活用について、教職員の研修意欲も高く、情報交換を行いつつ実践に生かしている。 ◇児童のパソコン操作の個人差が、少しずつ解消されてきている。 ◆端末を上手く活用し、学力向上につながるよう授業改善に取り組み、個々の児童の基礎・基本の定着及び伸長を図る。	教職員	A	93.8%	31.3%	62.5%	6.3%	0.0%
				児童	A	99.4%	90.6%	8.8%	0.0%	0.6%
				保護者	A	95.4%	36.9%	58.5%	3.8%	0.8%
				地域住民						
	⑭子どもたちは、忘れ物や宿題忘れをせず、朝学習や補充学習、自主学習に意欲的に取り組んでいる。 ※保護者の問い「学校は、補充学習や宿題、自主学習など子どもの学力向上に努めている。」 児童の問い「朝学習や補充学習に進んで取り組んでいる。」	A	◇朝学習や補充学習に、児童は真面目な態度で練習問題や間違い直しに取り組んでいる。専科教員が担当する学年に入り、指導することで成果が上がってきている。 ◇家庭と連携し、忘れ物や個別指導が必要な児童への対応を継続して行わなければならない。 ◆真面目に学習に取り組もうとする雰囲気がある。朝学習や補充学習の時間を確実に確保し、児童の学力の向上に努める。 ◆忘れ物、宿題忘れに関しては、家庭との連携を密にし、継続した指導を行う。	教職員	A	80.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%
				児童	A	93.1%	71.7%	21.4%	5.7%	1.3%

コミュニティ・スクール	⑭子どもは、「朝の歯磨き・洗顔・朝ご飯」の習慣が身に付いている。 *はゲーム時間、就寝時間に関する問い	A	◇朝、顔を洗っていない児童が多いことに驚く。学級で指導するだけでは改善が難しいので、家庭への啓発が必要である。 ◇ゲーム時間や就寝時間は、固定化しつつあり、課題が残る。 ◆PTAで協力して作成した「スマホの約束」を積極的に活用していく。 ◆生活習慣アンケートを実施の結果を通して、家庭への協力を呼び掛ける。	保護者	A	93.0%	26.4%	66.7%	5.4%	1.6%
				地域住民						
				教職員	B	78.6%	7.1%	71.4%	21.4%	0.0%
				児童	A	91.8%	81.8%	10.1%	3.1%	5.0%
				*保護者	A	94.8%	53.0%	41.8%	3.7%	1.5%
				*児童	A	85.5%	68.6%	17.0%	8.8%	5.7%
	⑮学校は、安全・安心な学校づくりに努めている。	B	◇児童が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒指導を中心に、学校内外での生活について意識付けを行い、児童の安全への意識が向上している。 ◇不審者対応避難訓練を行い、非常時の児童、教職員の動きについて確認することができた。 ◇登下校指導を継続し、登下校時の安全管理に努めていく。 ◆危機管理に対する教職員の意識を高め、情報交換と早期対応を適切に行う。 ◆登下校指導を継続し、児童や保護者、地域からの情報を確認するとともに、連携し、安全安心な学校づくりに努める。	保護者	C	64.9%	21.6%	43.3%	26.9%	8.2%
				地域住民	A	100.0%	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
				教職員	A	100.0%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%
				児童	A	98.7%	84.9%	13.8%	1.3%	0.0%
	⑯子どもたちの学習していることや活動の様子を、学校・学級だよりやホームページ等で知らせている。 ※児童の問い「学校から配られた文書や通信は、すぐ家の人に渡し、読んでもらっていますか。」	A	◇ホームページに授業の様子を上げ、児童の活動や学校の様々な情報を発信するよう努めている。 ◇学校だより、学級だよりの定期的な発行に努め、児童の様子を発信している。 ◆ホームページや学校だより、学級だよりで、早めの情報発信に努めるとともに、内容も工夫していきたい。	保護者	A	96.1%	44.1%	52.0%	2.4%	1.6%
				地域住民	A	94.7%	63.2%	31.6%	0.0%	5.3%
				教職員	A	93.8%	56.3%	37.5%	6.3%	0.0%
				児童	A	89.3%	73.0%	16.4%	8.8%	1.9%
	⑰学校は、保護者や地域と連携して教育活動を行っている。 ※児童の問い「家の人に学校のことや友達のことを話していますか。」	A	◇保護者、地域の方の協力により、教育活動がスムーズに行えている。 ◇ウィズコロナを意識して、活動内容や活動内容を工夫する。 ◆学校の教育活動には家庭・地域の理解や協力が欠かせない。段階的な事前の説明や情報交換、情報発信を丁寧に行い、理解と協力を得られるようにする。	保護者	A	96.3%	51.9%	44.4%	2.2%	1.5%
				地域住民	A	94.4%	38.9%	55.6%	0.0%	5.6%
				教職員	A	100.0%	31.3%	68.8%	0.0%	0.0%
				児童	A	82.4%	68.6%	13.8%	10.1%	7.5%

	評価委員の意見	学校の対応
人間力①	○今在家方面に下校している1～3年までの児童「さようなら」の挨拶がとても気持ちよかったです。 ○朝の登校時の挨拶は、リーダー（6年～5年生）次第で、大きな声が出ている時と全く出ていない時がある。 ○横断歩道を渡り切った後のお辞儀が身に付いている児童（特に高学年？）を見ると本当に安全教育とマナーの良さが感じられる。（平日、休日に関わらず自然とできている点が微笑ましい。）	○笑顔で挨拶の輪を広げることを意識して、称賛したり声掛けをしたりすることを繰り返し指導するとともに、登下校の指導を含め、具体的に根気強く、教師から模範を示す。 ○「おはようございます」「さようなら」だけでなく、いろいろな場面でのあいさつについても場面に応じて指導していく。
活力⑦	○指導者や高学年・リーダーが楽しい状況が保たれてこそ、周りが楽しく、いろいろと学べるのではと思います。 ○評価が低い児童への対応はどうしていくか。	○児童も教員も「学校が楽しい、明日も行きたい。」と誰もが言える学校を目指して、生徒指導体制や教育相談の充実、関係諸機関との連携を図る。また、児童の居場所づくりや仲間づくりにも努める。 ○個別の対応が必要な児童については、学級担任、支援員、専科教員と共通理解のもと支援を充実させていく。
学力⑩	○家庭学習の定着を図るために、どのような取組をしていくか。	○家庭学習の大切さや成果を説明し、児童の意欲を高めるとともに、家庭の協力・確認によって確実に学習習慣が身に付くようにする。 ○個別の課題設定等も考慮し、個に応じた対応もしていく必要がある。 ○ゲームやメディアとの付き合い方についても、PTAで協議して作成した「スマホの約束」をもとに家庭への啓発を継続する。
その他	○「学校は・・・」の項目に関しては、評価が難しかったです。（自らが学校の情報を十分に把握していないこと。《何々をしました。地域に何々しました。こういう意見がありました。等の情報提供もとりたててしない。→学校の活動として普段の活動として実践されていると思う。》等、私自身が積極的に関わりに欠けていることに要因があると思う。）	○コロナ禍で、地域との交流が制限されていた中で地域に出向く機会が減っていた中で評価していただくことは、難しかったのではないと思われる。その中で、しっかりと児童の様子見ていただき大変ありがたい。今後はできる限り、地域に出向く学習を取り入れていきたい。 ○評価の項目については再検討し、地域の方が評価しやすい項目を考えていく。